

【 お 知 ら せ 】

東海環状道等開通から 2 年「ネットワークが産業振興を支援！」

-東海環状道等 2005 年に整備された道路ネットワークにより中部が活気に溢れている-

1. 概 要

東海環状道等が開通して 2 年が経過しました。万博の開催や中部国際空港の開港に合わせた開通した東海環状道は、交通量が増加するなど順調に推移しています。

この度、開通から 2 年が経過した東海環状道等の最新の利用状況や、新たに判明した整備効果についてとりまとめましたので、その結果を報告致します。

2. 主なポイント

- 開通 2 年、東海環状道の使われ方に変化
 - ・平日平均交通量は 14 千台 / 日、開通時の 1.6 倍。また、豊田勘八 IC ~ 豊田藤岡 IC の平日の大型車の交通量は開通時の約 2 倍であり、生活・産業を支える道路として定着。
 - ・環状道路の内側（東名・名神・東名阪・中央道・東海北陸道）の渋滞を緩和。
「分散導入」「バイパス」機能を発揮し、年末年始の渋滞が開通前に比べ約 5 割減少（1 日あたり発生渋滞長、25 km → 13 km）。
- 新たな機能を発揮！
 - ・東名高速集中工事期間中、東海環状道（豊田勘八 IC ~ 豊田藤岡 IC）の交通量が約 9,000 台 / 日増加。中央道 → 東海環状道利用により環状道路が東名からの迂回交通を分散。
- 継続的效果の発揮！
 - ・沿線工業団地の販売も順調で各企業の操業が始まり、地域雇用も急速に増加。
 - ・岐阜県の有効求人倍率を見ると全国 2 位（2006.12）に躍進（開通前の 11 位 → 2 位）。
 - ・特に、沿線の関地区では 2.05 倍であり、全国平均の約 2 倍。
 - ・操業を開始した自動車部品会社では、東海環状道の開通により年間 4 千万円の物流コストが削減されました。
 - ・香嵐渓で実施したアンケートでは、東海環状道ができ時間短縮の効果を約 8 割以上の方が実感。また、約 3 割の人が外出頻度が増えたことを実感。
 - ・長野県の旅行会社では、複数の観光地をめぐる新たなツアーを商品化。